

ワイヤーアンテナの収納のアイデア

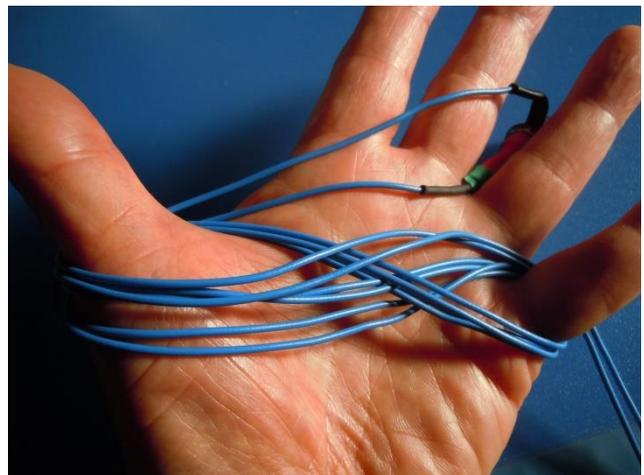
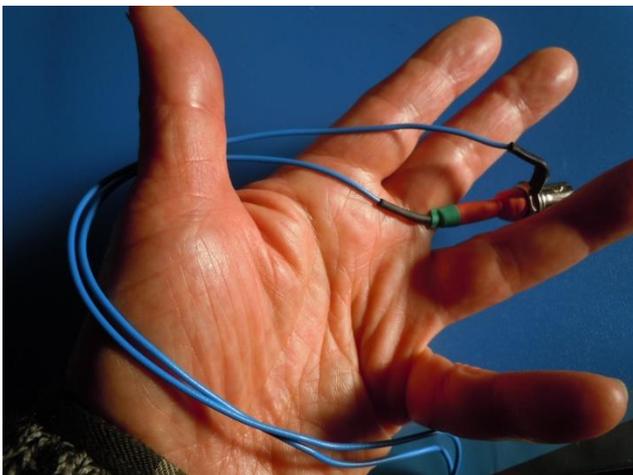


アンテナ線は適当にまとめておくと、伸展しようとした時絡まり合ってしまう、お団子を解くのに難渋します。

通常は型枠などに巻き付けて絡まるのを防ぐのですが、嵩張ってしまいます。

QRP での運用ではアンテナ線は太いのには越したことはありませんが、コンパクトにしたい場合は細い線を使うことが多いです。その場合、型枠などがとても邪魔になります。そこで、線だけでまとめておく方法を工夫しました。

指を使った、8の字巻き



コネクタ部を中指と薬指で挟んで固定してから、親指と小指の間でアンテナ線を8の字に巻いていきます。一回ごとの巻き線が中央でクロスすることで線同士が絡まることを防いでくれます。巻き終わりは線の端で数回8の字の真ん中をぐるぐると巻いて留めておきます。その上をベルクロのテープで固定しておくともっとしっかりまとめることができます。



アンテナ線を伸展する時には、留めてある部分を解いてコネクタ部か、線の先端部を持って、全体を放り出せば絡まることなく伸ばすことができます。

この方法で7MHz用のEFHWやベースローディングバーチカルなどのワイヤーアンテナをまとめています。枠がないので収納する場合にも柔軟性があり、荷物の隙間に押し込むことができ便利です。

カウンターポイズもエレメントと一緒に巻いておくと伸展の作業がやり易いです。

8の字巻きの終端処理

追記 2024.01

これまで巻き終わった後の処理は真ん中部分をぐるぐると巻き付けるだけで不安定でした。そのためベルクロなどの補助が必要でした。しっかりと留めることが出来る新たな方法を見つけましたので追記します。



アンテナ線だけでなく、支柱の支持用コードなど、終端処理の方法としては使い勝手がよいと思います。

纏めやすく、伸展時に絡みにくい収納方法です。



8の字巻きが終わったら、少し長めに端を残しておき、8の字のクロスしている真ん中あたりを緩まないようにぐるぐると巻き付けます。

残りの端でループを作り8の字で出来た穴に通します。そのループをコードの束を包むように上から被せるように手前に持ってきます。

コードの端を引いてしっかりと締め付ければ完成です。



しっかり締め付けると、8の字巻きが固定されると思います。

この方法ですと、ループを作る分コードの端が長くなり、できあがったとき端が邪魔になることがあります。

そこで、ぐるぐる巻きにした後、ループを作らず、左の写真のようにコードの端を通

すことで、同様に纏めることができます。

端を8の字の穴を通して向こう側に持っていき、片側のコードを巻くように左から手前にもってきます。そして、全体を包むように左右のコードを超えて、後ろ側から穴を通し手前に持ってきます。その端を今包み込むように通したコードの下を通して手前に引きます。これを締め付ければしっかりと纏めることができます。

太い、長いロープを纏める

アンテナ線や支柱を支えるコード、ロープなど細いものなら、指を使って8の字巻きをすることができますが、もっと太い、長いロープの場合、指では巻くことが出来ません。そのような場合、親指と人差し指で作ったYの字と肘との間で8の字巻きをすれば纏めることができます。

コイル状にロープを巻いて伸展時に絡んでしまった経験のある方が多いと思います。簡単な Tips ですがぜひお試しください。